

世界の貧困 現状学ぶ

西紫原中でユニセフ授業

鹿児島県ユニセフ協会は3日、鹿児島市の西紫原中学校で「水と衛生」と題した本年度初の出前授業を開いた。1年生197人が、開業途上国では子どもたちが不衛生な水を飲んで下痢や肺炎で多数死亡している現状を学び、食糧や薬を供給したり井戸を造ったりするユニセフ（国連児童基金）の活動に理解を深めた。

出前授業は世界の現

状や活動を伝えるのが目的。ビデオや講話で世界中では5歳まで生きられない子が年間660万人おり、1日1万8千人（秒に1人）のペースで亡くなっていることや、子どもが水くみのために学校へ行けない実態を紹介した。

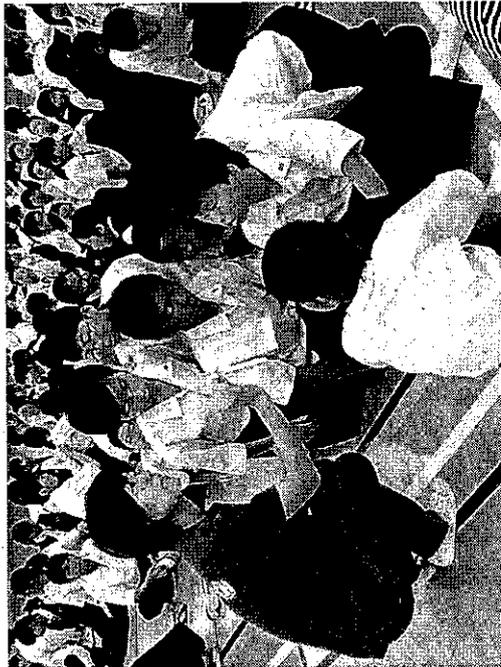
生徒らは水の入った約16リットルのかめを運んで重労働を体験。テープを輪にして表した栄養

失調の子の腕回り（約

12センチ以下）を見て驚いていた。スタッフは逆境のなかで懸命に生きる子どもたちを応援したいと訴えた。

山田珠実逓君（12）は「子どもが1秒に1人死んでいることを知り驚いた。1秒を大切に生きたい。節水節電などできることをやっていきたい」と話した。

県ユニセフ協会の立石尚之事務局長によると、同協会は2012年9月に設立。本年度から本格的に県内の小中学校で出前授業をしていく。（藤崎慎二）



栄養失調の子どもの腕の太さを確認する生徒
―鹿児島市の西紫原中学校